

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成26年11月7日

**【四半期会計期間】** 第83期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

**【会社名】** 神鋼鋼線工業株式会社

**【英訳名】** Shinko Wire Company,Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 取締役社長 小 南 孝 教

**【本店の所在の場所】** 兵庫県尼崎市中浜町10番地1

**【電話番号】** 06 - 6411 - 1051 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 総務本部企画部長 吉 田 裕 彦

**【最寄りの連絡場所】** 兵庫県尼崎市中浜町10番地1

**【電話番号】** 06 - 6411 - 1051 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 総務本部企画部長 吉 田 裕 彦

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第82期 第2四半期 連結累計期間	第83期 第2四半期 連結累計期間	第82期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	13,720	14,027	28,522
経常利益 (百万円)	394	283	1,024
四半期(当期)純利益 (百万円)	199	95	457
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	267	201	693
純資産額 (百万円)	19,375	19,063	19,338
総資産額 (百万円)	44,802	45,511	46,013
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	3.83	1.82	8.79
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	35.8	34.4	34.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	883	576	2,237
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	497	443	1,094
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	368	807	514
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	8,592	8,529	9,205

回次	第82期 第2四半期 連結会計期間	第83期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.14	2.19

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため、記載していません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について重要な変更はありません。

なお、第1四半期連結会計期間において、TESAC USHA WIREROPE CO.,LTD.を持分法適用の範囲に含めております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、昨年に引き続き大胆な金融緩和・財政政策等への期待感を背景とした円高の是正や株価の上昇により、先行きの景況感に明るさは見られるものの、中国経済の成長鈍化による減速感やウクライナ情勢など、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境は、民間投資関連需要では予想されていた消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動は軽微にとどまりましたが、公共投資関連需要では人手不足や用地買収の遅れによる工事開始の遅延等が顕著となり、出足は鈍く厳しい状況で推移しました。

このような状況に対して、当社グループでは、高付加価値製品の販売拡大による収益力の向上を図ってまいりました。また、原材料価格の高騰やエネルギーコストの上昇等に対しては販売価格の是正に努めるとともに収益改善活動や新生産プロジェクトを引き続き推進し、コスト競争力の強化を図ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は14,027百万円と前年同期に比べ2.2%の増収となり、営業利益は454百万円（前年同期比2.5%減少）、経常利益は283百万円（前年同期比28.1%減少）となりました。また法人税等および少数株主利益を差し引いた後の四半期純利益は95百万円（前年同期比52.3%減少）となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント毎の状況は次のとおりです。

#### < 特殊鋼線関連事業 >

(P C 関連製品) 公共事業関連では、人手不足の影響や用地買収の遅れなどから、前年度発注物件の開始遅れが顕著で前年同期に比べ販売数量、売上金額とも減少しました。民間需要では、マンション向け需要は比較的堅調だったものの、プロジェクト物件の工事進捗に遅れが生じ、全体として前年同期に比べ販売数量、売上金額とも減少しました。

(ばね・特殊線関連製品) 主要な需要分野である自動車産業向けの弁ばね用鋼線（オイルテンパー線）は、自動車メーカーの国内生産が消費増税後の買い控えの影響を受けつつも、概ね堅調に推移しており、加えて日系メーカーの中国での生産拡大や好調な北米市場に支えられ、前年同期に比べ販売数量、売上金額とも増加しました。また、O A 関連製品、家電、弱電向けのばね用ニッケルめっき鋼線は、中国の経済成長が鈍化する中、O A 関連製品の生産・在庫調整の影響を受けましたが、新規販売先開拓に努め、前年同期に比べ販売数量、売上金額とも増加しました。ステンレス鋼線は、住宅関連向けで在庫調整の影響を受けたものの、生活関連向けが堅調に推移したことから、前年同期に比べ販売数量、売上金額とも増加しました。

その結果、特殊鋼線関連事業全体の売上高は7,046百万円と前年同期に比べ2.6%増加となり、セグメント利益は230百万円と前年同期に比べ61百万円の増加となりました。

< 鋼索関連事業 >

ワイヤーロープの国内需要は人手不足による公共事業の着工の遅れなどから伸び悩み、国内向けの販売は前年同期並みとなりました。輸出については円安を背景として、前年同期に比べ販売数量、売上金額とも増加となりました。

その結果、鋼索関連事業全体の売上高は6,426百万円と前年同期に比べ7.4%増加となり、セグメント利益は332百万円と前年同期に比べ139百万円の増加となりました。

< エンジニアリング関連事業 >

道路騒音防止関連製品は前年同期に比べ増加しましたが、吊構造用ケーブルでは、橋梁向け、建築向けとも売上金額は前年同期に比べ減少しました。また、落橋防止ケーブルも前年同期に比べ減少しました。

その結果、エンジニアリング関連事業全体の売上高は523百万円と前年同期に比べ37.2%減少となり、セグメント損益は132百万円の損失（前年同期は80百万円の利益）となりました。

< その他 >

不動産関連事業の売上高、セグメント利益はそれぞれ31百万円、23百万円と前年同期並みとなりました。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、26,597百万円（前連結会計年度末は27,181百万円）となり、584百万円減少となりました。主に現金及び預金が675百万円減少したことによるものです。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、18,913百万円（前連結会計年度末は18,831百万円）となり、81百万円増加となりました。主に投資有価証券が127百万円増加したことによるものです。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、12,401百万円（前連結会計年度末は12,264百万円）となり、136百万円増加となりました。主に支払手形及び買掛金が146百万円増加したことによるものです。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、14,046百万円（前連結会計年度末は14,410百万円）となり、364百万円減少となりました。主に長期借入金640百万円減少、退職給付に係る負債が307百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、19,063百万円（前連結会計年度末は19,338百万円）となり、274百万円減少となりました。主に利益剰余金が347百万円減少したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前第2四半期連結累計期間に比べ63百万円減少し8,529百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増減額が減少したことなどにより、前第2四半期連結累計期間に比べ収入が306百万円減少し、576百万円の収入となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の減少などにより、前第2四半期連結累計期間に比べ支出が54百万円減少し、443百万円の支出となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の減少などにより、前第2四半期連結累計期間に比べ支出が439百万円増加し、807百万円の支出となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は111百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	88,000,000
計	88,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	58,698,864	58,698,864	東京証券取引所 (市場第二部)	株主として権利内容に制限 のない、標準となる株式 単元株式数は1,000株
計	58,698,864	58,698,864	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年9月30日		58,698,864		8,062		2,015

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(株)神戸製鋼所	兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通2丁目2番4号	18,031	30.71
神鋼鋼線工業(株)	兵庫県尼崎市中浜町10番地1	6,639	11.31
神鋼鋼線取引先持株会	兵庫県尼崎市中浜町10番地1	2,491	4.24
(株)メタルワン	東京都港区芝3丁目23番1号	1,968	3.35
(株)みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	1,512	2.57
日本生命保険(相)	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	1,152	1.96
神鋼商事(株)	大阪府大阪市中央区北浜2丁目6番18号	1,000	1.70
神鋼鋼線従業員持株会	兵庫県尼崎市中浜町10番地1	978	1.66
丸山 三千夫	山梨県中巨摩郡昭和町	866	1.47
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	東京都中央区晴海1丁目8-11	803	1.36
計		35,444	60.38

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,639,000	-	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式 単元株式数は1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 51,785,000	51,785	同上
単元未満株式	普通株式 274,864	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	58,698,864	-	-
総株主の議決権	-	51,785	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式737株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 神鋼鋼線工業(株)	兵庫県尼崎市中浜町10番地1	6,639,000	-	6,639,000	11.31
計	-	6,639,000	-	6,639,000	11.31

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	9,206	8,531
受取手形及び売掛金	9,517	9,148
商品及び製品	3,649	3,721
仕掛品	2,306	2,480
原材料及び貯蔵品	1,699	1,811
繰延税金資産	311	315
その他	539	638
貸倒引当金	49	48
<b>流動資産合計</b>	<b>27,181</b>	<b>26,597</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	4,117	4,014
機械装置及び運搬具（純額）	4,244	4,362
工具、器具及び備品（純額）	143	137
土地	6,033	6,033
リース資産（純額）	82	78
建設仮勘定	142	105
<b>有形固定資産合計</b>	<b>14,763</b>	<b>14,731</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>225</b>	<b>201</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,372	1,500
長期貸付金	0	0
繰延税金資産	1,466	1,587
その他	1,040	930
貸倒引当金	36	36
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>3,842</b>	<b>3,981</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>18,831</b>	<b>18,913</b>
<b>資産合計</b>	<b>46,013</b>	<b>45,511</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,775	2,922
短期借入金	6,923	6,967
リース債務	32	32
未払費用	1,184	1,235
未払法人税等	491	161
賞与引当金	527	542
その他	329	538
流動負債合計	12,264	12,401
固定負債		
長期借入金	10,261	9,621
リース債務	64	60
役員退職慰労引当金	62	47
環境対策引当金	8	8
退職給付に係る負債	3,148	3,456
繰延税金負債	492	493
その他	372	357
固定負債合計	14,410	14,046
負債合計	26,675	26,447
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,062	8,062
資本剰余金	6,354	6,354
利益剰余金	3,017	2,669
自己株式	1,355	1,356
株主資本合計	16,078	15,730
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	89	121
為替換算調整勘定	120	118
退職給付に係る調整累計額	328	293
その他の包括利益累計額合計	118	53
少数株主持分	3,377	3,386
純資産合計	19,338	19,063
負債純資産合計	46,013	45,511

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	13,720	14,027
売上原価	11,004	11,274
売上総利益	2,715	2,752
販売費及び一般管理費	2,249	2,297
営業利益	465	454
営業外収益		
受取利息	23	23
受取配当金	11	14
負ののれん償却額	30	-
固定資産賃貸料	24	16
貸倒引当金戻入額	6	1
その他	7	16
営業外収益合計	103	72
営業外費用		
支払利息	92	85
持分法による投資損失	1	67
その他	81	89
営業外費用合計	175	243
経常利益	394	283
税金等調整前四半期純利益	394	283
法人税、住民税及び事業税	141	149
法人税等調整額	20	6
法人税等合計	161	142
少数株主損益調整前四半期純利益	232	140
少数株主利益	33	45
四半期純利益	199	95

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	232	140
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32	32
為替換算調整勘定	1	1
退職給付に係る調整額	-	35
持分法適用会社に対する持分相当額	-	5
その他の包括利益合計	34	60
四半期包括利益	267	201
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	230	155
少数株主に係る四半期包括利益	37	45

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	394	283
減価償却費	486	490
のれん償却額	30	-
退職給付引当金の増減額(は減少)	44	-
賞与引当金の増減額(は減少)	20	15
貸倒引当金の増減額(は減少)	157	0
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	41
受取利息及び受取配当金	34	37
支払利息	92	85
持分法による投資損益(は益)	1	67
売上債権の増減額(は増加)	826	368
たな卸資産の増減額(は増加)	434	357
仕入債務の増減額(は減少)	87	146
未払費用の増減額(は減少)	3	54
その他	116	58
小計	1,184	1,099
利息及び配当金の受取額	34	36
利息の支払額	93	87
法人税等の支払額	242	472
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>883</b>	<b>576</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	487	278
無形固定資産の取得による支出	8	4
投資有価証券の取得による支出	0	150
関係会社株式の取得による支出	16	-
貸付金の回収による収入	0	0
その他	15	9
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>497</b>	<b>443</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	7,600	7,887
短期借入金の返済による支出	7,600	7,900
長期借入れによる収入	760	200
長期借入金の返済による支出	934	783
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	155	155
少数株主への配当金の支払額	24	37
その他	13	17
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>368</b>	<b>807</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	1
<b>現金及び現金同等物の増減額(は減少)</b>	<b>19</b>	<b>675</b>
現金及び現金同等物の期首残高	8,573	9,205
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>8,592</b>	<b>8,529</b>

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
持分法適用の範囲の重要な変更 TESAC USHA WIREROPE CO.,LTD.は重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より持分法適用の範囲に含めております。

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
(会計方針の変更) 「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を単一の加重平均割引率へ変更いたしました。 退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。 この結果、第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が310百万円増加、退職給付に係る資産が125百万円減少し、利益剰余金が281百万円減少しております。なお、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
神鋼新鋼線(佛山)有限公司	374百万円	449百万円

(注)上記の債務保証は、(株)神戸製鋼所による債務保証を当社が再保証したものであります。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
給料及び手当	638百万円	662百万円
運搬費	488百万円	502百万円
賞与引当金繰入額	87百万円	94百万円
退職給付費用	41百万円	51百万円
貸倒引当金繰入額	8百万円	0百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	8,594百万円	8,531百万円
預入期間が3ヶ月超の定期預金	1百万円	1百万円
現金及び現金同等物	8,592百万円	8,529百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	156	3	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	104	2	平成25年9月30日	平成25年12月9日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	156	3	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月6日 取締役会	普通株式	104	2	平成26年9月30日	平成26年12月8日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジ アリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,871	5,984	833	13,688	31	13,720	-	13,720
セグメント間の内部売上高 又は振替高	355	103	0	459	-	459	459	-
計	7,226	6,088	834	14,148	31	14,179	459	13,720
セグメント利益	168	192	80	442	23	465	-	465

(注1)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2)セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジ アリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	7,046	6,426	523	13,996	31	14,027	-	14,027
セグメント間の内部売上高 又は振替高	374	115	1	491	-	491	491	-
計	7,420	6,541	524	14,487	31	14,518	491	14,027
セグメント損益	230	332	132	430	23	454	-	454

(注1)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2)セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	3円83銭	1円82銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	199	95
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	199	95
普通株式の期中平均株式数(千株)	52,077	52,062

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【その他】

第83期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)中間配当については、平成26年11月6日開催の取締役会において、平成26年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議しました。

配当金の総額	104百万円
1株当たりの金額	2円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成26年12月8日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月7日

神鋼鋼線工業株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 脇田 勝裕

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柴原 啓司

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている神鋼鋼線工業株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、神鋼鋼線工業株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。